

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録 (2018.7) 平成29年度:96.

前立腺強度変調放射線治療をうける患者の排便・排ガスコントロールへの
取り組み(Efforts of defecation and intestinal gas control for patients
receiving IMRT for prostate cancer)

齊藤 容加, 山品 将祥, 山田 裕樹, 林 秀樹, 矢野 雅樹,
佐々木 駿

前立腺強度変調放射線治療をうける患者の排便・排ガスコントロールへの取り組み

Efforts of defecation and intestinal gas control for patients receiving IMRT for prostate cancer

○齊藤容加¹⁾ 山品将祥²⁾ 山田裕樹³⁾ 林秀樹³⁾ 矢野雅樹³⁾ 佐々木駿³⁾

1) 旭川医科大学病院 光学医療診療部・放射線部 NS

2) 旭川医科大学病院 放射線科 3) 旭川医科大学病院 放射線部

[目的]前立腺IMRTを受ける患者の便・ガス排泄の自己管理方法として、照射前の前処置時に温水洗浄便座での肛門刺激の実施を指導、その介入の効果を評価する。

[方法]2013年2月から2014年10月までに前立腺IMRTを受けた患者19名を1群介入前、2016年1月から2017年4月までに同様の治療を行った22名を2群介入後とし、診療録と放射線治療部門システムのCT画像及び記録から介入の効果を分析する。

[結果]照射プロトコルは70-74Gr/35-37Fr、1群では照射前のCBCTで便・ガスの貯留が確認され排泄を要した患者は12名(63.1%)であり、排泄を要した回数の内訳は1回:5名、3回:2名、4回:1名、6回:2名、7回:1名、10回:1名であった。またセットアップ後に排泄を要した患者からスムーズに治療が受けられないことへのスト

レスの表出があった。2群ではCBCT撮影後に便・ガスの排泄を要した患者は13名(59.1%)であり、回数内訳は1回:3名、2回:6名、3回:2名、6回:1名、12回:1名であった。温水洗浄便座の使用の拒否・苦痛の訴えはなく、肛門刺激による粘膜炎の出現はなかった。また排泄コントロールのため、食事の工夫や運動の実施、手持ちの緩下剤の調整などに積極的に取り組んでいた。

[結語]温水洗浄便座での肛門刺激によって、CBCT撮影後に排泄を要した回数は若干の減少を認めたが、統計的な有意差は認められなかった。しかし本介入において、排泄・排ガスコントロールの意識づけと行動化につながった。より有効な排便・排ガスコントロールの方法を検討する必要がある。